

Foxitは、高速・堅牢・高機能なPDFソリューションを専門に開発・販売・メンテナンスを行い、Adobeに次ぐ世界シェアNo.2を誇る企業です。FoxitJapanはFoxit社の技術をベースに、日本市場に最適化した各種PDF製品をエンタープライズからSOHOまで様々な分野の企業に提供しております。

FoxitJapanが切り拓く、PDFテクノロジーの未来とは？

日本ではPDF＝Adobeのイメージが出来上がっていますが、グローバルに目を向けてみると事情は大きく異なっています。Google・Amazonがブラウザやデバイスの表示系エンジンにFoxitのPDFを採用していることを、多くの日本人は知りません。

Foxit社はアメリカに拠点を置き、PDF製品の開発で20年以上の歴史をもち、世界150カ国以上で7億を超えるユーザーに愛されています。PDF関連商品の販売実績で世界的に大きなシェアを誇るPDFテクノロジーのリーディングカンパニーです。

FoxitJapanは、そのFoxit社の技術をベースに日本市場に最適化したPDF製品の開発から販売までを手がけています。専門の開発部隊を組織し、国内向けにカスタマイズしたPDF関連商品を提供しています。

次にFoxitJapanのユニークな社風と、独自のPDFテクノロジーについて紹介します。

すべてはPDFから始まった

PDFを世界で初めて開発したのはAdobeです。PDFは、1990年代初めに紙媒体を電子文書に変換するプロジェクトをスタート。1993年に、新しいファイル・フォーマットとしてのPDFが誕生しました。

当初は、文書データを紙に印刷した時と同様の視認性を保持するのが目的でしたが、PDFにはOSやパソコンの違いに左右されず同一のフォーマットで視認性を保持できるという大きなメリットがあり、各種デバイス間の互換性が認識されるにつれPDFは急速に普及しました。

2000年代に入ると、日本でも閲覧ビューワー向けのニーズ中心として、無料もしくは安価版のPDFソフトが利用されるよ

うになりました。やがてPDFファイルが自由に編集できるようになると、その互換性の高さから、様々な業界・企業がPDFを利用するようになり、PDFソフトはさらにグローバルレベルで普及しました。2008年にISO規格となったことでAdobeの手を離れ、PDFは複数の企業から販売されるようになったのです。

そして現在では、PDFが単なる閲覧ソフトから、編集可能かつ電子署名などで安全性を担保できる安全なフォーマットとしての認識が拡大し、国内の様々なビジネス分野であらためて注目を集めています。

ISO規格化にさかのぼること7年、一人の天才エンジニアの登場が、グローバルでPDF業界の流れを変えることになりました。コンピューター・エンジニアとして働いていたEugene氏が、超高速のPDFリーダーを開発し、その技術をもとに2001年Foxit社（Foxit Corporation）を設立したのです。

その後Foxitは、PDFリーダーをもとに、編集・加工・書き出し・ファイル管理など、PDFに関するあらゆる作業が可能な製品を生み出すことに成功しました。FoxitのAdobe以上に高速で多機能なPDFエンジンは、パーソナル・ユースからビジネス・ユースにまで幅広いPDFソフトの展開を可能とし、彼の生み出したPDFテクノロジーはその堅牢性と高性能が認められ、Google、Amazon、Microsoftなどの極めて大規模なシステムにも採用されるまでに成長を遂げました。

Foxit社は現在、本社をアメリカのカリフォルニア州フリーモントに置き、世界規模のPDFリーディングカンパニーとして、革新的なテクノロジーをグローバルに発信し続けています。

新基準 PDF Editor&SDK
Foxit PDF Editor



Foxitジャパンが生まれるまで

FoxitJapanは現社長の森真一が設立しました。ある時FoxitのPDFソリューションに出会った森が、その性能に圧倒されたことがきっかけでした。

森とFoxitとの出会い

森はAppleのディベロッパー会社などを経験したのち、28歳でソフト制作会社を起業しました。その10年後には2社目を設立、そこで初めてPDF関連製品の開発に携わるようになります。

森は世界中のPDF製品を調査しました。その中でFoxitが提供するPDF関連製品に出会い、そのスピード性や表現の再現性の高さに感銘を受け、Foxitと協業したいと考えるようになったのです。

Adobe Acrobatの牙城を崩す

PDFの関連業界では、何と言っても現在のAcrobatを擁するAdobeが圧倒的なシェアを誇っていました。それに対抗できる技術を開発することは、不可能と思えるほどでした。しかし「何かおもしろいことをやりたい」と常に試行錯誤していた森が、現在FoxitのCEOであるEugene氏の技術を知ったことで、局面は大きく転換します。

森は、Eugene氏に事業提携を申し出て2009年にジョイントベンチャーとしてFoxitJapanの設立を実現します。その後2020年にはFoxitの100%子会社となり、現在はFoxitの日本法人として本社と緊密な関係を維持しながら成長を続けています。

FoxitおよびFoxitJapanの目標は、1日も早くAdobe Acrobatの牙城を崩し、より使いやすく、よりリーズナブルな製品をすべてのユーザーへお届けすることです。そのためにはAdobeがやっていることはすべてやり、Adobeがやっていないこともやる、と森自身も力強く語っています。



FoxitJapan 代表取締役社長 森 真一

PDF関連商品の概要

FoxitJapanでは様々なPDF関連商品を開発・販売しています。その中から主力となる二つの商品を紹介します。

Foxit PDF Editor

Foxit PDF Editorは、高速で様々なPDF編集作業を可能にする、高性能なPDFソリューションです。スタンダードタイプに加えて、プロフェッショナル仕様やMacOS仕様などのバージョンも準備されています。

以前のPDFは、ほとんど読み取り専用の文書ファイルという扱いでしたが、今ではあらゆる書式をPDFに統合して、自在に編集や加工を行えるようになりました。その機能をワンパッケージに凝縮したのがFoxit PDF Editorです。

Foxit PDF Editorの主な機能は、PDFの編集と共有、異なる形式ファイルへの変換や書き出し、スキャン文書からのPDF作成など多岐にわたります。ファイルへのパスワード設定、また、電子署名やタイムスタンプなど、セキュリティ面でも多彩な機能を備えています。Foxit PDF Editorがあれば、Officeソフト顔負けのPDFを介したデジタル文書の作成編集作業が可能になるでしょう。

さらにMicrosoft AD RMSとの連携により、ログインユーザーごとにPDF文章の閲覧制限や有効期限などの設定ができ、高度な機能を低価格でユーザーに提供することを実現しています。



Foxit PDF SDK

開発者やデバイスメーカー向けに設計された、PDFソフトウェア開発キットがFoxit PDF SDKです。SDKを使用することにより、PDFを扱うためのあらゆる機能を、アプリケーションやデバイスに組み込みます。

Foxit PDF SDKは特定のプラットフォームに依存しないため、あらゆるユースケースへの対応が可能です。実際に電子機器や医療機器から娯楽用機器にいたるまで、幅広い分野で多くの実績を上げています。

Foxit PDF SDKならワンパッケージで、PDFを管理する細かい機能まで制御できます。また、様々なプログラミング言語にも対応しており、現在はWebブラウザ版やモバイル版など、使いやすい複数のパッケージを提供しています。

Foxit国内外での実績

Foxitはアメリカに拠点を置き、他にも中国やヨーロッパを中心にオフィスと開発チームを配置しています。エンジニア300名を含む、およそ800名の従業員が世界中の各拠点で開発や販売にあたっています。

ここでは主な顧客の中から、その業界と代表的な企業名をいくつか紹介します。

- ・ハイテク分野：Google、Microsoft、インテル、IBM
- ・金融分野：モーガンスタンレー、JPモルガン、ナスダック
- ・小売り分野：Amazon、スウォッチ、ブリヂストン
- ・ヘルスケア：ファイザー、ジョンソン&ジョンソン
- ・電子機器：ソニー、パナソニック、エプソン
- ・製造分野：トヨタ、フォード、フィリップス
- ・政府関係：アメリカ各政府機関、アメリカ軍、各州機関
- ・その他：ハーバード大学、シェル、ニューヨークタイムズ

ここに挙げた顧客は、クライアント全体のごく一部です。他にも、様々な分野の企業や機関がFoxitのテクノロジーを高く評価しており、そのシェアは年々拡大を続けています。

森みずから語るFoxitJapanとは？

ここからは、FoxitJapanという会社をより深く知っていただくために、社長の森本人が直接インタビューに答えた記事から、一部内容を抜粋して紹介します。主に現在の会社の状況と、森本人が思い描く将来像について語ります。

●まず現在の事業の状況から教えてください。-----

まだまだ成長過程にある会社ですが、日本は製造業はじめ金融業や自治体など紙の文化が浸透しており、紙の電子化分野を切り口にかなりのニーズがあります。FoxitJapanという会社名は浸透していませんが、日本企業の様々な分野で当社のPDFエンジンが採用されている、という手応えは感じています。

日本の市場向けのカスタマイズや企業向けのプラグインでの拡張機能を提供したり、ユーザーからの問い合わせに対するサポートを行ったりなど、かなり忙しい状況です。

●社内の皆さんの様子は？-----

少数精鋭で、開発、マーケティング、サポート、営業担当が密接に関わり合いながら、全員が積極的に活動しています。もちろん私も現場を回ったりしています。しかし正直申し上げて多忙を極め、できれば今の5倍は人材がほしいところです。

●それでも皆さん毎日頑張っているわけですね？-----

これは本当にありがたいことです。私はいつも、身体、メンタルのように、いろいろな要素を組み合わせないと物ごとはうまく行かないと言っていますが、それを全員が実践してくれているおかげでしょうか、非常にフットワークが軽くて風通しのいいチームになっていると思います。

社員全員が健康で幸せになって、個人のパフォーマンスが上がれば、会社のパフォーマンスも上がります。

その結果、会社の経営もよくなるし、社員はどこに出ても通用する優れた人材になります。私が言うと自画自賛になるかもしれませんが、とても人間味にあふれたいい会社だと思います。

●現在の業績には満足されていますか？-----

これもありがたいことに、PDFエンジンの性能が競合他社以上である、という自信をもって営業しています。そのおかげで、当社の場合ライセンス販売が中心ですが、1商談あたり1万ライセンスから数10万ライセンスという販売数になることもあります。

今は本社が中心の開発を、日本ならではの顧客視点の発想と市場ニーズに最適化した製品開発を推進し、さらに業績アップを目指します。

●最後に、これからのFoxitJapanの将来像について教えてください。-----

FoxitJapanでは、取引先や提携先とも積極的にコミュニケーションをとり、常に外部からの情報を取り入れています。そこから出た新しいアイデアで事業拡大の道が拓けることもあります。

新しい時代におけるビジネスモデルとして、AIや分散型のネットワークが拡大しています。これは大きなチャンスなので、Foxitのもつドキュメントコアの技術を、動的にAIやこのネットワークに提供し、より多くのユーザーが利便性を共有できる社会づくりに貢献したいと考えています。

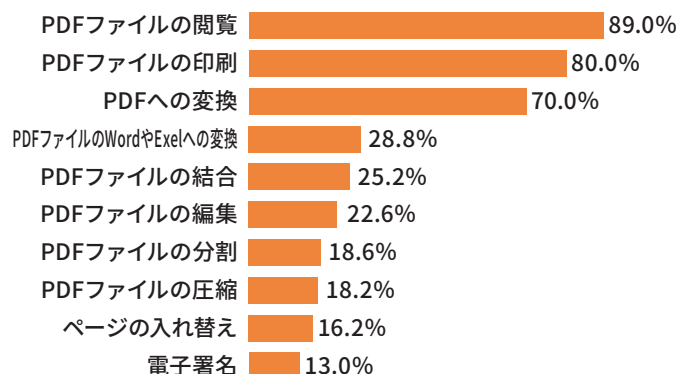
また量子コンピューターのような、まったく新しいテクノロジーにも注目する必要があるでしょう。ITビジネスの変化は急激に進んでいますが、その中でFoxitJapanが、パラダイムシフトの中心になる時が来ることを私は信じています。

Adobeを越える日のために

現在PDF業界のグローバルシェアはAdobeがNo.1であり、それをNo.2の位置でFoxitが追っています。しかしFoxitは、業界第2位という現状に満足しているわけではありません。

また、国内市場の現状を見てみると、業務で閲覧以外にもPDFを使用したことのある人へ向けた調査では、閲覧や印刷は80%以上の人が行っているものの、編集は22.6%と低い値になっています。

Q. あなたが業務でPDFを使用する際に 行うことをお答えください。(複数回答/n=500)



【調査概要】

1. 調査の方法: WEBアンケート方式
2. 調査の対象: 全国の20歳以上の業務で閲覧以外にもPDFを使用する男女
3. 有効回答数: 500名
4. 調査実施日: 2022年3月25日(金) ~ 3月28日(月)の4日間

PDFを全てのユーザーにとってもっと使いやすく、もっと便利なものにするために努力を惜まず、性能と品質やアフターサービスなどのすべてにおいて、Adobeを越えることがFoxitJapanの目標です。これからもPDFによるドキュメントソリューションにこだわり、FoxitJapanは多くのユーザーにプロフェッショナルな商品を提供し続けるでしょう。

※参考資料

Foxit(R)、Amazon.com による投資を発表

<https://www.foxit.co.jp/news/1456/>

Adobe PDFとは?

<https://www.adobe.com/jp/acrobat/about-adobe-pdf.html>

PDFの普及率高い日本、付加価値を使いこなす米国

<https://www.itmedia.co.jp/bizid/articles/0611/09/news062.html>



foxit®

株式会社 FoxitJapan

〒105-0022 東京都港区海岸1-2-3

汐留芝離宮ビルディング21階

<https://www.foxit.co.jp/>